

## 令和3年度第2回長野市環境審議会 議事録

### 【開催概要】

- ・日 時：令和3年9月27日（月）13時15分から15時00分
- ・場 所：庁議室（長野市役所第一庁舎5階）
- ・出席者  
委 員：大澤会長、高見澤副会長、穴山委員、倉崎委員、高木委員、錦織委員、山岸委員、赤羽委員、鈴木委員、竜野委員、中澤委員、早川委員、宮沢委員、小川委員、小林委員、松本委員、望月委員  
事務局：伊熊環境部長、安塚環境部次長兼環境保全温暖化対策課長、高木廃棄物対策課長、清水生活環境課長、中根資源再生センター所長、内山衛生センター所長、山口主幹兼環境保全温暖化対策課長補佐、新井環境保全温暖化対策課長補佐、桑原環境保全温暖化対策課長補佐、吉原環境保全温暖化対策課係長、宮原環境保全温暖化対策課係長、徳永環境保全温暖化対策課主事、米持環境保全温暖化対策課主事

### 【次 第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項  
(1)第三次長野市環境基本計画について  
ア 施策について  
イ 市民・事業所の取組指針について  
ウ 指標・目標値について  
・環境基本計画における目標値  
・地域推進計画における目標値  
エ 計画素々案について
- 4 その他
- 5 閉 会

### 【資 料】

- ・本日の次第
- ・【資料1-1-1】【資料1-1-2】施策について
- ・【資料1-2】市民・事業所の取組指針について
- ・【資料1-3-1】環境基本計画における目標値
- ・【資料1-3-2】地域推進計画における目標値
- ・【資料1-4】計画素々案について

### 【会議内容】

- 1 開 会
- 2 あいさつ

### 3 協議事項

#### (1)第三次長野市環境基本計画について

##### ア 施策について

【資料1-1-1】【資料1-1-2】

##### イ 市民・事業者の取組指針について

【資料1-2】

#### (早川委員)

市民等への取組指針の要請項目が多いが、どのような周知方法を考えているか。

資料1-2基本目標1施策テーマ1-3に「住宅の新築時には、エネルギー性能向上に配慮した構造を」とあり、施策テーマ1-5に「地域産木材を使用した住宅」とあるが、実際に新築するときどの業者に頼めばいいのかという情報提供は考えているか。

#### (事務局)

担当課が行う部分は、担当課が周知を進める。環境部としては、広報ながの、ホームページ、出前講座等、あらゆる情報手段を使ってご説明していく。地球温暖化対策については、地球温暖化防止活動推進センターと連携して取り組んで参る。

行政としては、事業者の紹介はしにくい。今年度長野市スマートハウス化応援隊事業を地球温暖化防止活動推進センターに委託する形で起こした。高い断熱性能や太陽光発電といった脱炭素につながる事業者に長野市のスマートハウス化応援隊になっていただき、地域の工務店とともにPRしていただく予定である。その中で、事業者と共同で脱炭素事業に取り組めればと考えている。

#### (穴山委員)

資料1-1-1に複数「炭素クレジットの活用」と「再生可能エネルギーによる低炭素電力への切り替え」が出てくる。需要側と供給側の両方で異なる施策に同じアクションとして出てきたりするのは、分かりにくいので、重複カ所について整理いただきたい。例えば、事業者側の省エネの推進は、低炭素エネルギー利用への転換とするなど。

#### (事務局)

検討する。

#### (松本委員)

資料1-2の市民の取組指針に記載のある蓄電池等について、蓄電池は15万円の補助があるものの、見積もりでは200万円と高額である。補助金について考えているか。

#### (事務局)

市単独での補助金は現在において無い。スマートハウス化応援隊事業等で、国や県の補助を紹介できるようにしたい。

#### (錦織委員)

資料1-1-1基本目標1施策テーマ1-1「新電力事業」について、色々な形態が考えられるのがいかか。また、資料1-2基本目標1施策テーマ1-1の事業者の取組の5つ目では、太陽光発電に限って書かれているのはなぜか。

#### (事務局)

本年度、自治体新電力の調査事業を実施しているが、結論には至っていないため、検討としている。太陽光発電は、事業者も市民も着手しやすい利点がある一方で、その設置を不安視する住民の方も少なくないことから、昨年度、市として条例制定もした経過を踏まえ、地域と調和したものを伸ばしていくという意味で記載している。施策テーマ1-2等で他の再生可能エネルギーについてメッセージを入れているが、分かりやすいように表現を工夫する。

##### ウ 指標・目標値について

・環境基本計画における目標値

【資料1-3-1】

・地域推進計画における目標値

【資料1-3-2】

#### (小川委員)

資料1-3-1基本目標3施策テーマ3-1の「希少生物調査対象種」について、目標値の

4 種の内容は決まっているか。また、調査するというだけで指標としてよいのか。

基本目標 5 は、参加者数が指標となっているが、よいのか。長野市の人口で考えると人数の割合は適切なものか。例えば、活動が自発的に生まれた事例や小中学校や地域での取組事例等、中身の見える具体的なもののほうが良いのではないか。

(事務局)

今まで継続的な調査行っていないため、まずはそこから始めたい。

参加者数を指標とすることについては、悩んでいる部分である。アンケートや回数ごとの人数、人口で割った参加者数等、こういった指標をというご意見あれば伺いたい。

(小川委員)

生物多様性については、物足りなさはある。市民としてできることがあればやっていきたい。

(高木委員)

資料 1-3-1 基本目標 1 施策テーマ 1-1 の「太陽光発電の設備容量」では、FIT 認定を受けた発電容量が指標となっているが、資料 1-2 には自家消費を推進するとある。例えば、会社が自社の消費電力の一部を太陽光発電で賄う場合などはのってこなくなってしまう。指標から自家消費を外してしまってもよいのか。

(事務局)

確実に把握できる数値として FIT 認定を受けた太陽光発電を挙げ、自家消費分については補足できる方法を検討させていただき、FIT 認定数に加える形を目指したい。

(高木委員)

資料 1-3-1 基本目標 1 施策テーマ 1-3 「市民一人一日当たりの温室効果ガス排出量」について、一般的には 1 日ではなく、一人一年何 t という表記だと思うが、いかがか。

(事務局)

長野市総合計画と合わせている表記だが、検討したい。

(穴山委員)

資料 1-3-1 基本目標 1 施策テーマ 1-3 の「二人以上の世帯当たりの年間エネルギー消費量」について、短期的にはこれでいいと思うが、中長期的には全体の電化が進む見込みが国のパブコメ中の第六次エネルギー基本計画や IEA とか BP のグローバルな見通しで示されているため、電化が進んで増える部分と省エネで電気を減らす部分とが相殺されあって、電気が増える可能性がある。他の計画や県とのバランスもあると思うが、需要見通しとの整合を考えつつ、一律に 1.5% 減らせばいいということではないと思うので、ご検討いただきたい。電化が進むという脱炭素の方向性を念頭に置いたうえで、組まれた方がいいと思う。

資料 1-3-1 基本目標 3 と 4 について、目標値が現状値より下がっているのは、なぜか。今より増える 75% くらいで、頑張る気概を見せたほうがよいのではないか。

(事務局)

電化の傾向は、これまでのデータから補足しており、それを踏まえて、そのうえで電力として削減すべきを 1.5% 以上とした。年間エネルギー消費量の家庭部門について、県が年間 2% の削減を目標としているため、長野市は 1.5% 以上とした。表現の仕方を工夫したい。

(穴山委員)

ZEH、ZEB 化していくと電化が進むこともあり、ゼロカーボンのためには極力電化をする必要がある。一律に 1.5% 減と表現するのは、いかがかと思ったため、今後ご検討いただきたい。

(事務局)

資料 1-3-1 基本目標 3 と 4 の指標については、その目標全体を表す指標として、長野市総合計画と連動するものとした。目標値は、現在より下がった場合に理由が必要となるため、市民の三分の二以上のパーセンテージを目標値としたが、検討したい。

(小林委員)

省エネ法を改定し、化石も非化石も係数を同じものにする動きもあるため、資料 1-3-1 基本目標 1 施策テーマ 1-3 の「二人以上の世帯当たりの年間エネルギー消費量」について、切り分ける必要はないと思う。

資料 1-3-1 基本目標 1 施策テーマ 1-3 で、都市ガスは、プロパンガスに入っているか

教えてほしい。

資料1-3-1基本目標1施策テーマ1-1の「太陽光発電の設備容量(累計)」には、kWで書かれているが、エネルギーなので、kWhにするべきではないか。kWhを増やしていかなくてはならない。設備利用率の推定値を使ってだした、kWhの推計値を付則としてでもいいので、資料1-3-2の2030年46%削減とリンクが分かるように表現していただきたい。バイオマスは、MWhでも書かれているので。

太陽光発電した電気の買取価格が下がり、電気料金が上がる動きがある。さらに、環境省や県から補助金も出そうなので、脱FITが進み、自家消費に移るのは間違いない。推定でやるしかないと思うが、補助金を使う場合にデータを開示してもらおうとか、何か工夫をして自家消費の把握をいただきたい。

(事務局)

家計調査では、都市ガスは購入金額しか掲載されていないため、除いている。

太陽光について、kWhは、日射量に応じた稼働時間をかけてお示しはできるが、我々のフィルターをかけた数字になってしまうため、推計値を出すための計算方法という形のご案内になる。バイオマスについては、事業所が少なく、把握が可能なことと燃料がないと動かない時間が出てしまうので、設備容量と発電量の関係が太陽光より比例しにくい部分もあるため、MWhも記載している。

自家消費については、把握したいが、数値の把握の仕方が難しい。まずは、FITの数字を基準とし、そこにどれだけ把握できたものを積めるかだと考えている。

## エ 計画素々案について

【資料1-4】

(小川委員)

69ページの計画の推進の図について、環境調和都市推進委員会というのが行政の中に入っているがどういったものか。

計画を進めるにあたっては行政が主体となっていくと思うが、膨大な計画なので、幅広く市民に周知していく必要があると思う。この図は、市民、事業者、行政がそれぞれの主体ごとに何をしていくかは見えるが、その主体同士が有機的につながって一つの目標を達成していくという横のつながりが見えてこない。この図とは別の図でも、何かあるといいと思う。

評価、検証について、どのようにされるかお聞きしたい。第三者的な委員会のような検証するセッションがあったほうがいいと思うが、いかがか。

(事務局)

環境調和都市推進委員会は、長野市の部局長で構成する会議である。ここで、統轄的な調整とコントロール、前年度の目標値に対する結果の報告と改善の推進を行っている。

市民、事業者、行政の横のつながりは、個々にはたくさんあるが、一つにまとめて説明しづらい。例えば、商工会議所のエコ活動推進本部に補助をだして一緒に活動していたり、ながの環境パートナーシップ会議のイベントに会員以外の団体や市民が参加したりと関係団体のご協力をいただき、進めていくことは現にやっているところであるが、どう表現できるか検討したい。

評価については、70ページにあるように審議会でも前年度の目標値に対する結果の報告をしているが、迅速性に欠けること等を感じているため、今回の計画策定にあたって検討したい。

(小川委員)

交流により生まれる事例もあると思うので、ラフな意見交換をできる場や市民の意見を受け付ける窓口があるといい。

(大澤会長)

69ページについて、市民、事業者、行政みんなでやっていくイメージができる図だといい。

#### 4 その他

(高木委員)

ZEHについて、ZEHが作れる工務店があっても、施主との折り合いが合わないため、すべての注文をZEHにすることができないという話を工務店からうけている。スマートハウス化応援隊事業でZEHの宣伝をすることもよいが、それを建てたいと思う工務店と施主がいても建てられない現状を打開するにはどうしたらいいのかを、施主、工務店、行政が集まって話しあう場があるとよい。補助金もそうだが、どういった方法が実際にありえるのか、また、お金以外の支援方法はないかを含めて、話し合える協議会のようなものができたらいいのではと思う。協議会は、ZEHについてだけでなく、他の重要な目標でも同じことが言えるのでは。基礎自治体やるべき対策だと思うので、今すぐとは言わないが、検討してもらいたい。

(事務局)

長野市は協議会や市民のニーズと事業者のシーズを結びつけるところが弱いと感じているので、ぜひ検討したい。

#### 5 閉 会